



「効果あるがん検診」 提供しています



効果あるがん検診とは「検診を受け、早期発見・早期治療で、死亡率が減少すること」

下表：効果○=死亡率減少効果があり、国で定めているがん検診

効果△=がんにに対して死亡率減少効果は現在確認できていないが、リスク分類や精密検査等に有用性がある検査

部位	検査名	効果	効果欄△について
胃	胃部エックス線検査	○	△ ABC検査 死亡率減少の効果は現在わかっていないが、胃がんの発生リスクを血液検査で簡便に分類できる。
	胃内視鏡検査	○	
	ABC検査	△	
大腸	便潜血検査	○	△ 胸部CT検査 死亡率減少の効果は現在わかっていないが、ミリ単位で撮影して、肺全体を調べられる。
肺	胸部エックス線検査	○	
	胸部CT検査	△	
子宮	頸部細胞診	○	△ 乳房超音波検査 死亡率減少の効果は現在わかっていないが、若年者や乳腺の発達した人には適している検査。
乳	マンモグラフィ検査	○	
	乳房超音波検査	△	
前立腺	PSA(前立腺特異抗原)検査	△	△ PSA(前立腺特異抗原)検査 現在、がん検診のガイドラインに定められていないが、「早期発見には有用」とされており、血液検査で簡便に調べられる。
その他	PET検査	△ 下記参照	
	腫瘍マーカー		



「青色文字の検査」=当健保組合で実施している検査(当健保組合の一部で実施の場合あり)

全身を調べる 気になる検査

PET検査



がん細胞は正常細胞より多くブドウ糖を取り込む特徴があり、その特徴を利用する検査。放射線を発するブドウ糖に似た薬剤(FDG)を身体に注射した後、その集積状況を調べる。

一度に全身を調べられる一方、薬剤が集積しにくいがん^{注1)}もあり、単独検査に向かない。

注1) 薬剤が集積しにくいがん：胃・腎臓・膀胱・肝臓・前立腺・子宮頸など

腫瘍マーカー



腫瘍が出来ると、血液などにたんぱく質や酵素など急激に増えることがあり、それらを血液検査で調べる。

マーカーには多くの種類があり、1つで複数の臓器を調べられる一方、臓器が特定出来ず^{注2)}、不必要な検査を招くため、単独検査に向かない。

注2) 腫瘍マーカーCEAは、胃・大腸のほかすい臓や肝臓などにも反応する

毎年受けよう! 「がん検診」